

キーコーヒー 「コーヒー教室」が『純喫茶、セミナー



近年、国内外で再評価される日本独自の文化「純喫茶」のルーツを辿ると、1880年代の「可否茶館」、「風月堂」「夏見世」（洋菓子店でのコーヒー提供の先駆け）、木村屋工場の喫茶室設置、神田学生街のミルクホール。1900年代の資生堂パラードのソーダファウテン（飲料提供装置）が日本橋三越の日本初のデ

キーコーヒーは今年、一般の生活者も参加できる「コーヒー教室」が開講70周年を迎えた。本紙はこのほど、周年企画七ミニターのひとつ「純喫茶を楽しもう！」を取材し

パート食堂、小売りと喫茶が併設した「不二家洋菓子店」、1910年代の銀座「カフェ・プランタン」、キーコーヒー創業者の故・柴田文次氏も勤めた「カフェ・パウエル」と続く。戦前はコ

パート食堂、小売りと喫

に多様化しているが、店舗数を減らしつつも純喫茶文化は脈々と受け継が
れている。

現代における考え方
気になるところだが、同

氏は「ヨーロッパ」を代表する形で「日本の素晴らしい喫茶文化のひとつとしてシンプルに楽しんで

もらえばいいと思う
当社の大切なパートナー

である喫茶店を通じて、少しだけ生活者の暮らしが豊かになれば」と自由な選択を進めていく。

「フルーツグラタン」の説明
だ。各々の盛り付けを楽しむ。

参加者は満足した様
で、同氏は「良いモノ
時代が変わつても評価
されつづけていきたい」と
語った。

者は「純喫茶」とは、と考えていたが、店舗外観、内観、味わい、



関東アルミニ缶回収協力者・拠点を表彰

アルミ缶リサイクルは
会はこのほど、25年度度
東地区優秀アルミ缶一般
回収協力者・回収拠点
表彰した。

一般回収協力者は新
11、再選7。回収拠点
山治紙業磐田営業所製
原料事業部（静岡県磐
市）など新規2、伸和

実績に触れ、「半数は一般生活者によるもの。皆様の自主性の賜物だ」と感謝を示し、続けて来賓を代表して経済産業省製造産業局金属課の松本暢之が、金属技術室長が「政府



弘津宗光理事長（東
製罐グループホールデ
ングス・写真右）は、
ルミ缶リサイクル率が
年連続（16～24年度）
目標値92%に達してい

强度 リサイクルに優れたアルミは欠かせない。皆様一人一人の意識の高さ、集団活動に敬意を表す」と述べた。